



Dr. Steven Greer

The UFO issue is complex.

The motives of the Illegal Secret Government/Cabal are simple. They want world domination, power and control. Uniting the world under a false "alien threat" is one of their ways of gaining that control.

Please carefully read Dr. Greer's paper "When Disclosure serves Secrecy".

And carefully evaluate what you are hearing from the mainstream media and in Congressional hearings.

Dr. Steven Greer | PO Box 265, Crozet, VA 22920



Try email marketing for free today!

以下は7月27日、米国議会での公聴会後に、スティーブン・グリア氏からMLのConstant Contactで送られてきた彼の論考“When disclosure serves secrecy”(1999年)を和訳したものです。世紀末の1999年に書かれた文ですが、グリア氏は今読むことを勧めています。その内容は一部『UFOテクノロジー 隠蔽工作』にも書かれていることですが、闇の軍産複合体にはアルマゲドンを起こそうとする宗教的狂信が深く関与しているという警告です。これを読むことは6月のディスクロージャーで行われたグリア氏の警告、そして7月の米国議会UFO公聴会の方向性、メディアの報道の仕方などを検討する手掛かりになるかもしれません。

以下和訳

UFO 事案は複雑。不法な影の政府/陰謀団の動機は単純です。彼らが望んでいるのは世界征服、権力と支配です。「エイリアンの脅威」という嘘を世界に広めることが人々を支配する方法の1つなのです。

どうかグリア博士の論考「ディスクロージャーが隠蔽に加担してしまう場合」を丹念に読んでください。

そして大手メディアの報道や、議会の公聴会で聞いたことを注意深く吟味して欲しい。

ディスクロージャーが隠蔽に加担してしまう場合

1999 年

スティーブン・M・グリア医学博士

UFO/ET 問題をめぐる隠蔽を終わらせることは輝かしい目標であるが、それは長いこと達成されていない。それが達成されたら、世界はシンプルかつ根本的に変貌することだろう。

しかし、それには多くの危険が伴う。

UFO 関連の陰謀を 60 年近く実行してきた闇のプロジェクト集団は彼らの成果を積んだカートがひっくり返されるようなディスクロージャーは望まない。彼らが望むディスクロージャーは彼らの成果の受け皿を小さなカートから大きな貨物列車に変貌させるような種類のものである。彼らはそれが出来るだけのパワーとコネクションを潜在的にもっている。

UFO 問題のディスクロージャーを行うシナリオにはいろいろある。— そのすべてが人類の利益を第一としているわけではない。新著『地球外知的存在とのコンタクト』では世界が必要としている種類のディスクロージャーについてその証拠と示唆が書いてある。真面目に、そしてオープンに書いたものだ。それは隠蔽を民主主義に置き換えるものであり、平和的、科学的であり、希望に満ちたディスクロージャーである。

しかし権力側がやりたがる種類のディスクロージャーもある。意図的に操作されたものだ。権力を強固にし、恐れを抱かせるように計算されたディスクロージャー。大衆を混乱に陥れ、ジョージ・オウエルの『1984』に登場する支配者ビッグ・ブラザーを強く求める気

持ちにさせるように綿密に構成されたものだ。我々は彼らの計画を知っているが、それは実にひどいものだ。

私はこの文を警告として書いている。羊の皮をかぶった狼は実にずる賢いという警告だ。彼らはほとんど無尽蔵の資源をもっている。彼らとともに働いている人のほとんどは彼らが狼であることを知らない。実際、狼たちの多くが羊だと思われているだろう。

UFO問題はそれほど神秘的なものではない。故意に難解にされ神秘化された問題もあるがそれとは違う。混沌や曖昧さが社会の監視が届かない彼らの秘密の目標をますます肥大化させてしまうのだ。それに伴い権力と悪しき計画は密かに強化されていく。社会にとってこれらの秘密すべてよりもさらに危険なものは、これらの秘密を保持している連中が計画し行う仕組まれたディスクロージャーである。

何年もかけてそのような計画が練られてきた。ちょうど良いタイミングでそれを展開するために。何か途方もないことが起こるといふ雰囲気の中で。社会の混乱の中で。ひょっとすると新世紀を迎える狂騒の中で（訳注：この論考は1999年10月21日に書かれている）。

私はそのような計画に深く関わっている人たちの多くと個人的に会ったことがある。私の話すことは単なる憶測ではない。明確に意識してほしい：彼らの「UFOの真実の暴露」=ディスクロージャーは非常に注意深く練られてきた。熱心に計画を遂行し、それを狙い通りの軌道に乗せようとしている。彼ら秘密の保持者たちの栄光と権力をさらに高めることができる軌道に乗せようとしている。それは偽のディスクロージャーとなるだろう。それは人間存在に昔からつきまとう災いから生まれたものだ。つまり我欲と貪欲から生まれている。権力への底知れぬ欲望。他者を統制せんとする欲望。支配への欲望だ。

我々は未熟さを脱し、このような事態をきちんと知るべきである。常にアンテナを張り、情報に通じた大衆のみがそのような欺瞞を見抜き、そのような計画が実行されないように正すことができるのだ。すべての市民は大義は真実が知らされることによって実現できるということを知る必要がある。しかしまた成熟した市民がはっきり認識すべきことがある。それは、「真実」は何度も繰り返し語られるうちに変化し、しまいには隠然たる権力を渴望する連中の目標に合致したものになってしまうこともありえるということだ。

よく考えてほしい。ディスクロージャーのひとつのシナリオは科学的かつ希望に満ちたやり方で UFO と地球外文明を認知することだ。国民に還元される行政と議会による監視を欠いた過度な隠蔽は終わりを告げる。人類は異星文明との公然たるコンタクトを受け入れ始める。彼らとの平和な契約を目指して。現在は抑制されているテクノロジーの使用が認められ広まっていき、汚染が終わりを告げる。豊かな経済と社会正義がしっかりと確立される。地球の環境破壊や度し難い世界の貧困はかすかな遠い記憶となる。ゼロポイントから得られるエネルギー・デバイスが世界を変貌させる。反重力デバイスが地面に触れない走行を可能にし、世界中の肥沃な農地を舗装でつぶすこともなくなる。ある ET がフィリップ・コルソ大佐に語ったように「あなたたちがそれを受け入れれば、新世界が開きます」。これが我々が目指すディスクロージャーである。

上述のディスクロージャーは 1950 年に起こる可能性があった。しかし起こらなかった — どうして？なぜならそのようなディスクロージャーが起これば現状の全面的変容が起きるからだ。主要なエネルギー・システムは過去のものとなるだろう。石油は潤滑油や化学製品にしか使われなくなる。今日の地政学的秩序は忘れ去られるだろう。地球上のすべての国と人々が高いレベルの発達と進歩を遂げ、すべての国がひとつのテーブルに着けるようになる。力も分かち合いが必要になるだろう。異星の高次元生命を敵対せずに平和裏に認知することが地球をひとつの故郷、小さな有機的体であると感じさせることだろう。世界規模で何兆ドルも使う軍産複合体は矛を収めるだろう。そして普遍的な精神世界が夜明けを迎える…。

しかし忘れてはならない。非常に大きな力をもった利権団体がこのシナリオをひどく恐れている。彼らにとってこの種のディスクロージャーは彼らが享受している世界の終焉を意味する。集権的で選民的な権力を失うのだ。彼らが支配する地政学的秩序の喪失である。その支配によって地球上の 90% 近くの人々が石器時代とさほど変わらない状態に置かれている。彼らは掌握した権力を分かち合う気などない。

さて、この秘密の支配計画を実現させる「ディスクロージャー」について述べさせてほしい。これは偽のたくらまれた「ディスクロージャー」であり、その唯一の目的は、彼らの権力、彼らのパラダイムのさらなる強化である。それが生むのは恐怖であり、愛ではない。戦争であり、平和ではない。分裂や紛争であり、結束でない。それは支配のパラダイムである。しかしそれは徐々に気配を消していく。そして UFO や ET 関連の「事実」を周到に演出したディスクロージャーが彼らの権力を確実なものにする。これは怖がらせるためのディスクロージャーである。これは警戒すべきディスクロージャーであり、既に実行されつつあるディスクロージャーである。

私は UFO 関連の計画を練っている秘密の職員たちとは過去 9 年以上にわたり会談する機会があった。彼らは私をスパイ小説に登場するような人物たちと引き合わせてくれた。それも何度も。場所は民間のハイテク企業だったり、ペンタゴンだったり、個人のマンションの一室で行われた真夜中の集まりだったりした。こうした集まりで明かされる彼らの考えには特徴があった。この組織は一種の巨大な権力であり、もっかのところ表に出ていない。この組織は表の米国政府を凌駕している（この件に関して「我ら人民」[訳注：米国憲法前文にある文言]の政府は全く知らされていない）。そして彼らが明かした考えには 2 つの主要な要素がある。一ひとつは ET 問題を密かに軍事問題にしていこうという考えであり、もうひとつは奇妙な秘密の宗教的観念である。それは奇怪としか言いようがないものだ。

ここで目にするのは非常に奇妙な連中だ。戦争マニア、大実業家と結託したミリタリストたちである。彼らはある種の奇妙な終末論的嗜好を共有している。未来を悲観的にとらえ、地球外からのアルマゲドンを一あるいは少なくともその脅威を演出する。このような彼らの思惑はその退廃的かつ熱狂的な宗教的動機を下支えし、同時に軍拡を宇宙にまで広げようとする極秘の軍産共同計画を支えている。

実際、いわゆる「民間 UFO コミュニティ」の幹部たちはそのような信仰とシナリオにはまっている。このような信仰は軽信を呼ぶと言わざるを得ない。しかし、これらの作戦をよく調べてみると分かったことがある。

軍産複合体の見方而言えば、彼らを選ぶディスクロージャーは UFO/ET を脅威と見せかけるものである。宇宙からの脅威が立証できれば（レーガン大統領がよく使うフレーズだが）、世界全体がそのような脅威と戦う必要のもとで結束できる。これは軍産複合体に次の世紀にも、それ以降にも使える数兆ドルの資金を余分に提供することになる。もしみなさんが冷戦は費用がかかったと思うなら、宇宙の「脅威」から「防衛する」ための費用の決算書を見るまで待つことだ。冷戦にかかった数兆ドルはバーゲンセールのようなものだったと分かるだろう。

退廃的で狂信的なグループはまたアルマゲドンの予言の成就に以前から多大な関心をもっている。稼働中の秘密の UFO プロジェクトが信仰体系にうまくはめ込まれた世界終末論的パラダイムは天国における宇宙規模の対立として描写され、支持されている。これでお分かりだろう！ UFO/ET 問題を「侵略する邪悪なエイリアン（宗教用語で言えば悪魔）」にすり替えるわけが。

実際、このすり替えは「民間 UFO コミュニティ」や大衆向けのメディアが（この件では事実上すべてのメディアが）すでにやり遂げている。

さらに付け加えて言うなら、この件の背後には人種差別が透けて見える。みなさんも気付いているだろうが、UFOに関する「新神話」の一部に「良いETたち」が含まれている。「ハンサム」で肌が白く、青い目のアーリアン系の特徴をもった「プレディアン」が常に登場する。当然、邪悪な悪いETたちは黒く、背が低く、おかしな見た目、おかしな臭いがするとされる。このようなたわごとは昔から存在する人種差別をETの種類に置き換えさせようとしている。このナンセンス、プロパガンダはヒトラーを喜ばすだけだ。

ある大富豪と長い会見をしたことがあるが、彼はいわゆる「エイリアン・アブダクション」事件を世間に周知する UFO 活動家たちに莫大な資金援助をした。なぜなら彼はこの「エイリアンの脅威」と戦うことによって人類を結束させたいと思っているからだという。のちにこの影響力の大きい人物は、悪魔的 ET はアダムとイブ以来の人類の歴史で生じたすべての挫折の原因だったと信じていると私に言った。この手の話に聞き覚えがあるだろうか？

軍がらみの人間誘拐のような偽りの ET 事件をでっちあげる闇のプロジェクトがある。そのプロジェクトに深く関与している軍関連の諸機関がある。これらは UFO/ET 現象を悪魔の仕業にするという共通の目標をもっている。そうすることによって恐怖と不安を煽り、ET 関連のすべてをネガティブに捉えるようにさせるのだ。そしてこのことが軍備拡大の根拠を長期間にわたって提供することになる。世界平和が到来すべきであるにもかかわらずだ。実際、このシナリオのもとで「世界平和」、正確にいうなら地球上の平和は、レーガン大統領の言う「宇宙からの脅威」に対して世界が結束すれば獲得できるだろう（ちなみに個人的にはレーガンは取り巻きの偽情報の犠牲者だと私は信じている。取り巻きには情報操作の専門家たちがいて、レーガンの考えを操作し、宇宙からの脅威を口にさせたのだ。）

軍産複合体の観測気球である UFO 「コミュニティ」の尽力で最近練られ「開示された」シナリオを実行すれば地球上の平和は達成されるだろう。宇宙間戦争をする代わりに。一歩前進、10歩後退。なんと素晴らしいことか。

UFO/ET に関するこのような偽のたくらまれた「真実暴露（ディスクロージャー）」は強力な闇の組織の計画を促進することになるだろう。この組織には2つ集団が混在しており、1

つは軍産部門。もう1つはアルマゲドン（その実現は早ければ早いほどいい）を切望する狂信者たちなのだ。

ジェームズ・ワット

読者はこのようなミリタリストと宗教カルトの奇妙な合体などありえそうもないと思うかもしれない。そうならないようにするには第三帝国のおぞましい思想を思い出してもらおう。あるいはもうひとつ、最近あったことだが、レーガンが大統領だった数年間米国の内務大臣秘書官を務めたジェームズ・ワットの事件を思い出してほしい。彼はマイクのスイッチがまだ入っていて録音されていることに気付かずにいた。1980年代のことだ。そしてこう言ったのだ：我々はこのような環境問題を心配する必要はない。アルマゲドンがじき起こって世界は破壊されてしまうからだ。米国政府内務省のための政策を立案し申請する人間がこのような奇妙な考えを述べたのだ。この発言がのちに一般メディアで報道された。この発言はおそらく笑い話のたぐいだったのだろう。しかしこのような考えがたぶん闇のUFO政策、とくに彼らのディスクロージャー計画を形成しているのであり、その度合いが垣間見れたということではなかろうか。我々はこのような考えが一たいいていの人にはただ奇妙に思えるだけだろうが一 UFO に関する闇の政策形成に強く反映していることを確認できている。

そして中でも一番不安にさせるのが、宇宙空間を武力で威嚇するやからと奇怪な信仰との奇妙な野合が圧倒的な力を持ち、「民間 UFO コミュニティ」と印象操作を施した UFO ディスクロージャーの両方を生み出していることだ。騙されてはいけない。中身を知らない買い物ほど危険なものはない。

理性的で知的な人たちはこのような警告をバカげていると思うかもしれない。そして次のように言うだろう：宇宙空間で宇宙戦争をする？アルマゲドンを起こして地球を破壊するだ？なぜだ？誰がそんなことを望むだろうかと。この警告を理解するにはそのような度し難い信念をもっている連中の頭の中を覗くしかない — ジェームズ・ワットのような連中の頭の中をだ。彼の頭の中はこうだろう：ほんのちょっとの乱伐、大気汚染、海洋生物の死滅

など気にすることはない。もし数年のうちに全世界が滅ぶことになるのなら。

しかしこの種の考えはさらにエスカレートする。なぜならこのような狂信的思想にはアルマゲドンの結果キリストの再来と、それに伴う善き人々の救済が起こるというコンセプトが含まれているからだ。何を信じるのも自由だ。しかし彼らがこのような信仰によって

UFO に関する闇の政策を意図的に広めていることを我々は知っている。彼らの中にはアルマゲドン
を欲している者たちもいる — できるだけ早くそれが起こることを望んでいるのだ。

はっきり言うと、ミリタリストや戦争屋は映画「インディペンデンス・デイ」のセリフを借りるなら「エイリアンの尻をキック」したくてたまらない連中であり、自分たちの存在を正当化したり、宇宙からの脅威を察知し（捏造されたものだが）、世界に巨額の金を使わせるための口実を求めているだけなのだ。

しかし、次のようなケースもある — UFO の秘密を扱っている闇の組織の最上層で2つの潮流が出会うケースだ。組織の最上層がミリタリズムと世界終末論が融合する場なのだ。

民間 UFO コミュニティと UFO に関わる闇の政策立案グループ双方の歴史をたどってみると、後者が前者にますます浸透していつているのが分かる。その浸透度が深いので、表向きは純粋な民間主導の活動体のプロジェクトであっても、実際は極秘プロジェクトの一部になっていて、完全に管理され資金提供もされていることがある。

さらに言うと、我々がこのようなプロジェクトに密かに潜入して探った結果、気がかりな発見があった。それは極秘の闇プロジェクトの職員たちはいわゆる民間の研究者やジャーナリスト、著名な UFO 論者たちの身近にいて一緒に働いていることだった。CIA や軍情報機関の職員たちが民間の「シンクタンク」のトップたち、ならびに大金持ちで世界終末論者の実業家たちと共に活動しているのだ。その実業家たちは「民間」の技術者や科学者のアドバイスを受けているのだが、その技術者や科学者自身、E Tが世界の終わりをもたらすという奇怪な宗教的信仰の支持者である。

このようにして新たな「選民」が集められる。彼らが UFO/ET 問題のディスクロージャーをみんなのために計画してくれる。彼らは UFO プロジェクトを進める闇の組織の指示に従う無節操な金の亡者や黒幕たちの部下である。それでもこの活動は民間主導のように見える。とても純粋で、とても良い意図をもち、とても「科学的」に見える。しかし彼らは急に話題を変え、ET のせいで大変なことが起きる。それを防ぐためにみなさんのお金と命が必要になると言い出すのだ。

騙されてはいけない。みなさんは闇のシナリオに対して敏感になるべきだ。そのシナリオの中には世界に信頼を寄せているように見えるものもある。しかしみなさんはそれとは違う別

の道もあることを知っているべきだろう。もしある「ディスクロージャー」が外国人排斥、軍事礼賛などの恐ろしい世界を形成するために行われているなら、それは闇の夢想家たちに由来するディスクロージャーである。その主導者やグループがいかに立派に見えようともだ。

さらに覚えておいてほしいことがある。それはこの種のディスクロージャー計画の一部は人間の手で作られた偽 UFO を使用するということだ。その偽 UFO を使って地球を攻撃、もしくは地球の軍事施設を攻撃する。この攻撃では人類の高度なテクノロジーを巧みに使用し、ET の攻撃だという嘘をでっちあげるのだ。すべては彼らが実現を望む軍事的妄想を宿した「真実」を明かすためである。このシナリオが展開されると人類の多くは騙され、宇宙からの脅威がやってきたと信じてしまう — そして何としてもこれと戦うべきだと思ってしまうだろう。これは軍産複合体のための長期の社会保障以外の何物でもない。この詐欺行為を暴露する人びとが出てくるべきである。

しかし我々は迫る危険に気付かないでいる世界に向けてこの闇のシナリオが実行されるのをただ待っているだけでいいのだろうか？

ひとつのアイデアを述べたい：「我ら人民」が結束し、この論考で初めに述べたようなディスクロージャーを開始しようではないか。それは真摯なディスクロージャーである。戦争ではなく平和を目指すものだ。持続する美しい世界、汚染の解消、あらゆる種類の豊かさの充溢を目指すものだ。粒子ビーム兵器を宇宙空間に発射する代わりに、未知の世界に探索の手を伸ばすようなディスクロージャーだ。

さらに付け加えておきたいが、この論考で言及した陰謀を体験的に知っている人がいたら名乗り出ただけでないだろうか。我々のウェブサイト <http://www.cseti.org> にコンタクトして、その狂気を暴露していただける人がいたら歓迎したい。闇の秘密組織が最も嫌がることは、その闇にスポットライトを当てられることだ。ライトを当てる人が多ければ多いほどよい。

善なる人々が何もしなければ悪が侵入する。これは何千年にもわたる人類の歴史を通して得られた教訓である。我々は新しい時代のスタートに立っている。新しい世界が我々を待っている。しかし我々はその世界を迎えるために自ら歩み出て、その世界を自ら創り出すべきである。なぜならもし我々が動こうとしなければ、他の者たちが勝手に振舞おうとするからだ — 少なくとも短期的にはそうなるだろう。

スティーブン・M・グリア医学博士

CSETI 代表

アルベマール郡, バージニア州

1999 年 10 月 21 日